

「福島12市町村における公共インフラ復旧の工程表」の更新について

「福島12市町村における公共インフラ復旧の工程表」について、福島県、関係市町村等と連携し、平成28年度末時点で更新しましたのでお知らせします。

平成28年度においては、

- ① 上下水道は、富岡町、浪江町において、帰還困難区域、津波被災区域を除いて復旧
- ② 医療施設は、富岡診療所(富岡町)、浪江診療所(浪江町)、いいたてクリニック(飯舘村)が復旧等
- ③ 文教施設は、小高小学校及び中学校(南相馬市)、葛尾小学校及び中学校(葛尾村)、檜葉中学校(檜葉町)が復旧
- ④ 広域インフラは、JR常磐線が、浜吉田～相馬間、原ノ町～浪江間で運転再開し、農業関係では、大柿ダムから南相馬市小高区への農業用水の供給が可能

となるなど、概ね工程表の計画どおり進捗しています。

これにより、帰還困難区域や津波被災区域を除き、生活に必須なインフラ(道路、上下水道)は、概ね復旧しました。

※詳細については、復興庁のサイトよりご確認ください。

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-3/index.html>

(参考)

「福島12市町村における公共インフラ復旧の工程表」

：福島12市町村*を対象に、「福島復興再生基本方針」(平成29年6月30日閣議決定)を踏まえ、各施設管理者において、昨年度の成果と当面3ヵ年の公共インフラの復旧見通しをとりまとめているもの。

〔 *対象市町村：田村市、南相馬市、川俣町、広野町、檜葉町、富岡町、川内村、浪江町、葛尾村、飯舘村、大熊町、双葉町 〕

【問合せ先】

復興庁インフラ構築班 渡辺、秋島、巻
電話：03-6328-0233

○ 平成28年度においては、

- ① 上下水道は、富岡町、浪江町において、帰還困難区域、津波被災区域を除いて復旧
- ② 医療施設は、富岡診療所（富岡町）、浪江診療所（浪江町）、いいたてクリニック（飯館村）が復旧等
- ③ 文教施設は、小高小学校及び中学校（南相馬市）、葛尾小学校及び中学校（葛尾村）、檜葉中学校（檜葉町）が復旧
- ④ 広域インフラは、JR常磐線が、浜吉田～相馬間、原ノ町～浪江間で運転再開し、農業関係では、大柿ダムから南相馬市小高区への農業用水の供給が可能となるなど、概ね工程表の計画どおり進捗。

主な公共インフラ復旧の状況

◎：復旧完了 ○：復旧中 △：調査計画中 —：該当なし、被災なし

区分	田村市	南相馬市	川俣町	広野町	檜葉町	富岡町	川内村	浪江町	葛尾村	飯館村	大熊町	双葉町
道路	◎	○	◎	○	◎	◎	○	○	◎	○	○	△ 測量・設計の実施
	◎常磐自動車道(H27.3～全線通行可)			◎一般国道6号線		○県管理道路						
上水道	—	○ 〔津波被災区域 以外は再開〕	—	○ 〔津波被災区域 以外は再開〕	○ 〔津波被災区域 以外は再開〕	○ 津波被災区域 以外は再開	—	○ 津波被災区域 以外は再開	◎	◎	○	△ 基本構想策定中
下水道	—	◎	—	◎	◎	○ 津波被災区域 以外は使用再開	◎	○ 津波被災区域 以外は使用再開	—	◎	○	△ 基本構想策定中
医療福祉施設	—	◎ 小高保健福祉センター が再開	◎ 山木屋診療所 が再開	◎	○ 保健福祉会館 の復旧完了	○ 富岡診療所 の新設完了	◎	◎ 浪江診療所 の新設完了	◎	◎ いいたてクリニック が再開	—	—
文教施設	◎	○ 小高小中学校 の復旧完了	○	◎	○ 檜葉中学校 の復旧完了	○	◎	○ 浪江東小中学校 の改修工事に着手	○ 葛尾小中学校 の復旧完了	○	△	△
役場・公共施設	—	◎	◎ 新庁舎の 整備完了	◎	○	○ 庁舎の復旧完了	—	◎	◎	○	○	△
観光施設	—	—	—	—	○ 木戸川渓谷遊歩 道の復旧完了	—	○	○	△	○	—	—
廃棄物等	○ 双葉地方広域市町村圏組合の施設(8町村) H27年度までに、北部衛生センター(浪江町)、南部衛生センター(檜葉町)の復旧工事が完了し、一般廃棄物の焼却を実施中。											
鉄道	○ JR常磐線 平成28年7月12日に原ノ町～小高間、同12月10日に浜吉田～相馬間、平成29年4月1日に小高～浪江間が運転再開。											
農業水利	◎ 大柿ダム(浪江町)から南相馬小高区への用水路が復旧し、平成29年度から農業用水の供給が可能。 ○ H28年度までに南相馬市の農業用排水機場5箇所の復旧工事が概ね完了し、本格稼働が可能。											

(注1) 上表は、平成29年3月時点で取りまとめ。

(注2) 上表は、帰還困難区域を除いて評価しているが、町の大半が帰還困難区域に指定されている大熊町、双葉町については、これを含む。

(注3) 上表のうち、凡例下段のコメントは平成28年度の実績であるが、()は、過年度の実績。